

アイホールの戯曲塾・伊丹想流私塾(いたみそりゆうしじゅく)の卒業公演。
今年を選びすぐりの5本の短編戯曲を一挙上演。
関西の精鋭俳優に加えて、
元プロジェクト・ナビ(北村想主宰)の
中心俳優=小林正和・木村庄之助も出演! 必見です。

伊丹想流私塾 第9期生公演

居残りステージ・五噺

塾長
北村想

総合演出

中村賢司(空の驛舎)

演出

芳崎洋子(糾々あざない)

高橋あやのすけ(逆境VAND)

作

伊丹想流私塾 第9期生

吉川泰治・白石知子・濱本直樹・

龍元志保・和田教子

出演

尾方宣久(MONO)、

小畑香奈枝、菊谷高広(遊劇体)、

木村庄之助、小林正和、

小西久仁子・佐藤あい(糾々あざない)、

白井哲也(PM/飛ぶ教室)、

風太郎(ピッコロ劇団)

スタッフ

舞台監督/巻西健一

照明/岸田緑(エスエスシー)

音響効果/濱田留美(エスエスシー)

演出助手/坂本郁子・陣崎真司

日時

5月28日(土) 19:00

29日(日) 15:00

※開場は開演の30分前です。

会場

アイホール (JR伊丹駅前)

〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1

かつて演劇は「演劇とはこうでなければならぬ」だった。ちょうど日本にスタニスラフスキー・システムが輸入された頃である。それ以前はまあ「さまざまだった」とでもしておこう。それからスタ・シスも廃れて、次に「演劇とはこうである」になった。ただし「こうである」はいろいろあった。それから「演劇とは何であるか」なんてことになって、この「こうである」と「何であるか」による連続螺旋運動が現状というところだろう。「戯曲」もまた同様の道をたどってきた。ところで、我が「想流私塾」はそこんところをどうしているのか。たぶん「それは明日考えよう」という塾長である私の姿勢、方針、主義、思想、によって存立し、また屹立しているのである。私たちは[カテゴリー・パス]つまり「論理の越境」を怖れず、(思考のアンアーキズム)を退けず、いわば[無作為の必然性]に拠って「戯曲」を学んできたのであった。(客席の一部から拍手)その結果、塾生たちはもうナニが何たかワカラナイけど、やっちゃうから、もう、というひとつの〔真理〕を手にしたハズである。これはチャカしていつているのではナイ。現在という状況において、いまだかつて経験したことのない時代の到来による不安に対処しうる、ひとつの手だてであるには違いないのだ。粉骨碎身せよ。私たちは虹のように碎けたいのさ。

北村想 ● 伊丹想流私塾塾長
劇作家・演出家 第28回岸田戯曲賞受賞

料金

前売:1000円

当日:1200円

(全席自由・開演1時間前より整理券発行)

問い合わせ・チケット取扱

アイホール ☎072-782-2000

主催

伊丹市/財団法人伊丹市文化振興財団

AI・HALL